

行政視察報告

8月23日～25日 全議員で福島県西会津町と長野県栄村の先進事業を視察してまいりました。

〈西会津町〉

テーマ：西会津町地域資源活用総合交流物産館「よりっせ」の運営と特産品の販売

農林業の振興と所得の向上、広域交流による地域の活性化を目的として整備された施設で、町の基本理念「すべてにやさしい健康のまち にしあいづ」をテーマにしています。

1993年に『健康の町』を宣言し、トータルケアのまちづくりを開始、食生活の改善から着手しました。土づくりから始めた健康ミネラル野菜の栽培は、健康な体づくりへと着実に成果を上げ、国保税の減税も実現しました。

道の駅にしあいづの交流物産館「よりっせ」で販売するミネラル健康野菜は非常に好評で、年商は約2億円に上ります。地域の活性化にも貢献している施設として学ぶべきことがたくさんあり、特にまちづくりのわかりやすいコンセプトは、大変参考になりました。

8/23
「よりっせ」
店内 →



テーマ：テレワークセンターの機能と町の活性化

テレワークセンターは、ケーブルテレビの双方向技術を活用し、新たな産業の創出や地域経済を活性化するために設置された施設です。廃園になった保育園の各部屋に情報通信設備を備え、起業を目指す人やUターン・Iターンの人たちが利用できるよう支援しています。

町が今後生きていくために、地域ビジネスを実践する姿は、わが町でも学ぶべきことと思います。

〈栄村〉

テーマ：げたばきヘルパーによる安心の村づくり

栄村は全国でも有数の豪雪地で、財政は地方交付税61%が主な歳入です。自立するための施策として、田直し事業、道直し事業、げたばきヘルパー事業、雪害対策事業、道踏み事業などを村民上げて実施しています。

「げたばきヘルパー事業」とは、豪雪地の山里に点在する31の集落で、24時間いつでもヘルパーが駆けつけ、安否確認と介護をするもので、「真夜中でも雪の中でも、近所なら下駄履きで駆けつけられる」ということから名付けられたそうです。

住民による安心ネットで、高齢者が住みなれた郷土で安心して暮らせる村づくりが実践されています。ヘルパーワーキングチームを作って、24時間体制の介護を実現したものの、10年後のヘルパー高齢化を考えた後継者育成が課題となっているそうです。

また、介護保険事業では、デイサービスの利用者が定員に満たないこと、老人ホームの入所者が個室を嫌う傾向にあり、施設の改修が必要なことなどの課題もあるそうです。

村の介護環境は整備が進むものの、介護サービスへの理解が遅れており、世話になりたくないという気持ちが強いため、村直営の介護保険事業は厳しい状況とのお話でした。



8/25 栄村役場にて

(文責 小林市子)

『認知症サポーター研修』を受講しました

議員勉強会報告 No. 8
H22年9月9日



老後の最大の不安『認知症』、誰にでも起りうる脳の病気で、家族や周囲の人が正しい知識を持ってサポートすることで、穏やかな日々を過ごせます。

富士見町でも『認知症サポーター2230』運動が進められています。我々議員もキャラバンメイト連絡会の皆さんに、寸劇を交えわかりやすく認知症とその対応を教えていただき、家庭や地域での生活に生かしていけそうです。